

琉球大学学術リポジトリ

伊平屋村の産業振興の方向

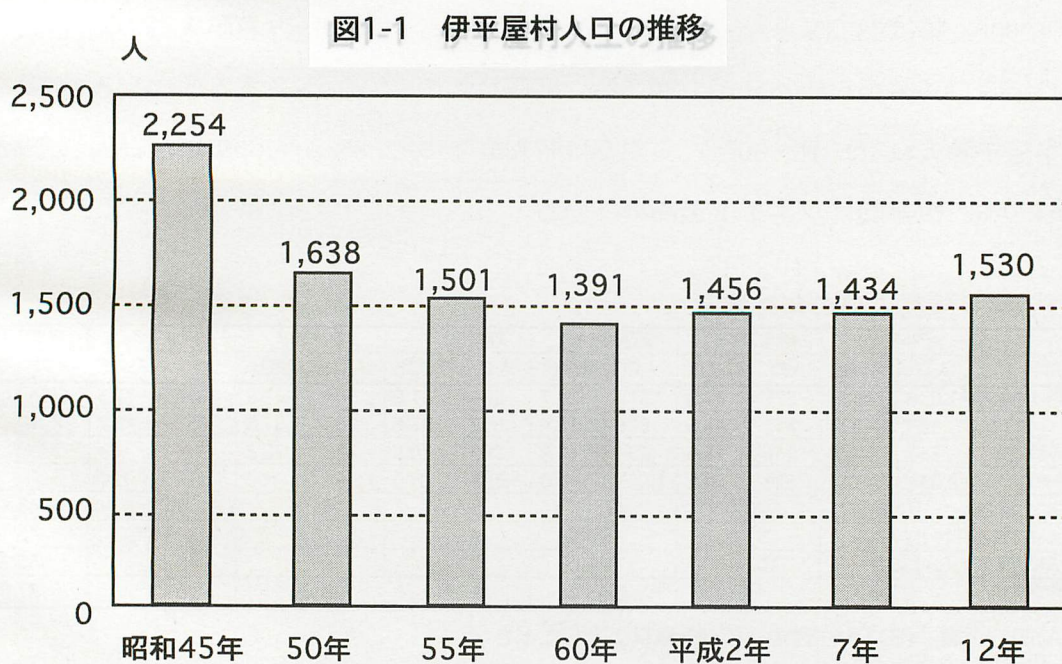
メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学アジア太平洋島嶼研究センター 公開日: 2012-06-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大城, 肇, Oshiro, Hajime メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/24685

伊平屋村の産業振興の方向

大 城 肇

1 伊平屋村の経済社会条件

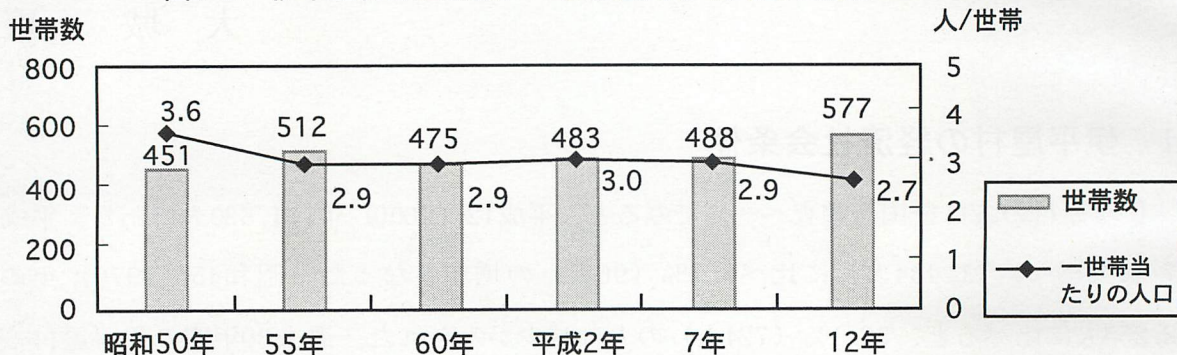
伊平屋村の人口を国勢調査ベースで見ると、平成12（2000）年は1,530人であり、平成7（1995）年（1,434人）に比べ6.7%（96人）の増加となった。昭和45（1970）年の2,254人に比べると、32.1%（724人）の人口減少がみられた。過去30年間の伊平屋村の総人口の推移をみると、昭和60（1985）年の1,391人を最小規模として、減少から回復をたどっていることがわかる（図1-1）。平成12年以降、この回復基調を持続できるかどうかは村政に課せられた課題である。



資料：「沖縄県統計年鑑」各年次版。

伊平屋村の世帯数は昭和50（1975）年の451世帯から平成12（2000）年の577世帯へ1.3%（126世帯）の増加がみられた。世帯数は、過去25年間、増加傾向を示し人口の減少傾向と回復基調とは対照的な動きを示している。この結果、1世帯当たりの人口は、昭和50年の3.6人から平成12年の2.7人へ減少傾向を続けている（図1-2）。この傾向は、高齢世帯や核家族世帯が増えていることを表している。

図1-2 伊平屋村の世帯数、一世帯当たりの人口の推移



資料：「沖縄県統計年鑑」各年次版。

次に、伊平屋村の人口の年齢構造をみると、他の地域同様に、年少人口（0～14歳）の割合が低下し老年人口（65歳以上）の割合が高まって、少子・高齢化現象が進んでいる。昭和45（1970）年の年少人口の割合は46.0%であったが昭和60（1985）年は21.9%、平成12（2000）年は23.3%となって、傾向的に低下している。一方老年人口の割合は、昭和45年の11.5%から昭和60年の20.5%、平成12年の22.7%へ高まる傾向をみせている。なお生産年齢人口（15歳～65歳）の割合は昭和45年の42.5%から60年の57.6%、平成12年の54.0%へ相対的にウェイトを高めている。

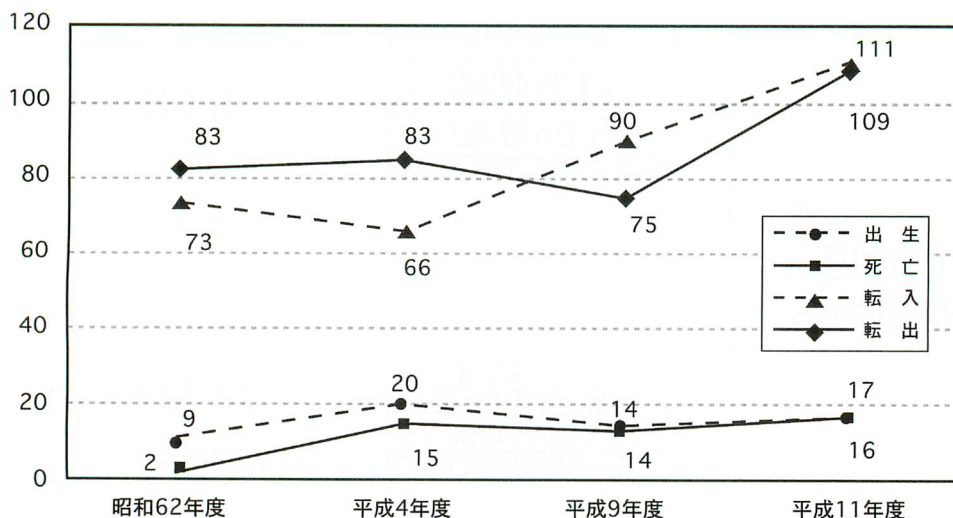
表1-1 伊平屋村人口の年齢構造

	昭和45年		昭和50年		昭和55年		昭和60年		平成2年		平成7年		平成12年		
	人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比	
年齢区分	0～14歳	1,036	46.0	571	34.9	371	24.7	304	21.9	304	21.9	392	27.3	356	23.3
	15～64歳	959	42.5	811	49.5	876	58.4	802	57.6	802	57.6	698	48.7	826	54
	65歳以上	259	11.5	256	15.6	254	16.9	285	20.5	285	20.5	344	24	348	22.7
	総人口	2,254	100	1,638	100	1,501	100	1,391	100	1,391	100	1,434	100	1,530	100
年少人口指数	108.0		70.4		42.4		37.9		45.3		56.2		43.1		
老年人口指数	27.0		31.6		29.0		35.5		38.8		49.3		42.1		
従属人口指数	135.0		102.0		71.3		73.4		84.1		105.4		85.2		
老年化指数	25.0		44.8		68.5		93.8		85.8		87.8		97.8		

※ (A)0～14歳 (B)15～64歳 (C)65歳以上としたとき
 年少人口指数 A/B*100
 老年人口指数 C/B*100
 従属人口指数 (A+C)/B*100
 老年化指数 C/A*100

資料：「沖縄県統計年鑑」各年次版。

図1-3 伊平屋村の人口動態の推移



人口動態は、[自然動態（出生率－死亡数）＋社会動態（転入数－転出数）]で把握される。伊平屋村の人口動態を昭和62年度から平成11年度までについてみると、自然動態はプラスながらも漸減しているのに対し、社会動態は平成4年度までマイナス値であったが、平成9年度以降、プラスに転じている。ただし、社会動態もプラスながら漸減し、今後の見通しとして、公共事業の一巡後はマイナスになることも予想される。

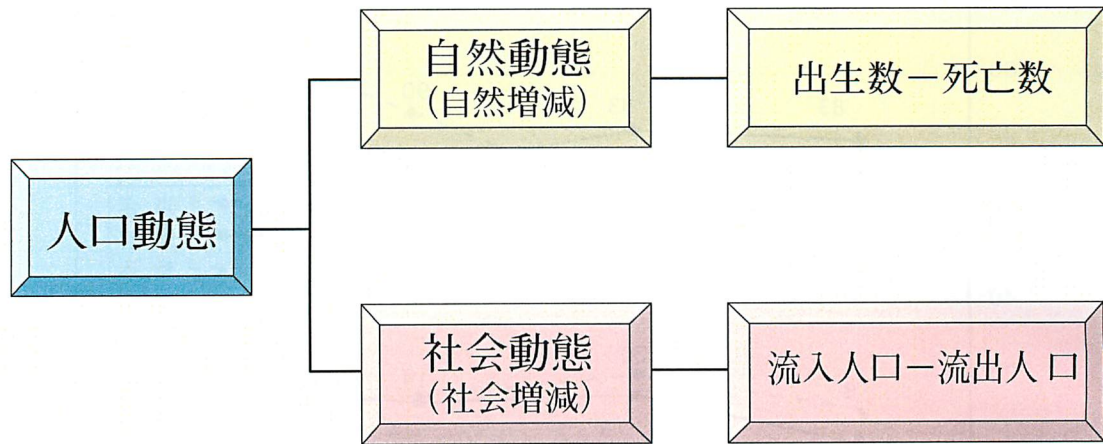
したがって、今後、村内に雇用吸収力のある産業を振興させない限り、自然動態も社会動態もマイナスになることが見込まれ、人口減少につながる恐れがある。

(2) 人口予測

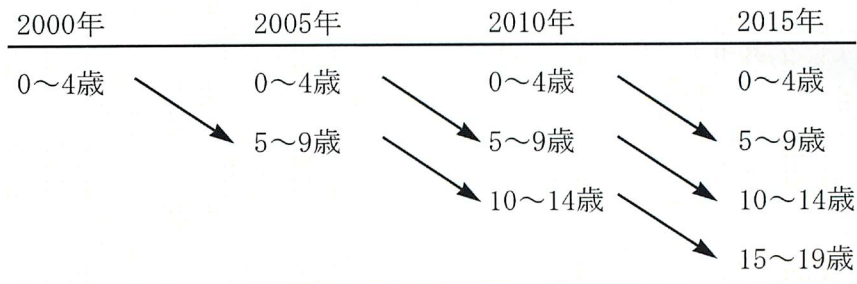
1985年から2000年までの国勢調査による男女別・5歳階層別人口を用いて、2005年、2010年、2015年の3時点における伊平屋村の人口を推計する。推計方法には、要因別推計法であるコーホート変化率法を用いる。コーホート変化率法は、一定時点の基準人口に人口変動要因を加味して推計する方法である。

コーホートとは、同じ時点・期間に特定の事件が発生した集団を表す言葉である。たとえば、同じ時期に結婚した人々の集団は結婚コーホートと呼ばれ、同じ期間に生まれた人口集団は出生コーホートと呼ばれる。この出生コーホートは、人口推計で用いられる。

コーホート変化率法で加味される人口変動要因は、人口動態を構成する自然動態と社会動態を総合的に表したものである。



将来の人口推計は、国調の男女年齢5階級別人口を用いて行う。国調人口を用いるので、各年齢階層の人口は、5年後には一つ上の年齢階層へ移動することに注目する。すなわち、例示すると、



この法則性を考慮して、5～9歳以上の人口は、各年齢階層のコーホート変化率を求めて推計する。今回の推計では、15年間の平均変化率を用いることにした。

なお、0～4歳人口は、出産可能女子人口（15～49歳の母親）に対する0～4歳（子ども）の比率（＝婦人子ども比率）を求めて推計する。

$$\text{婦人子ども比率} = \frac{\text{0～4歳人口}}{\text{15～49歳女性人口}}$$

1985年から2000年までの国調人口をベースにして、2005年、2010年、2015年の男女別・5歳階層別人口を推計した総括表が表1-3に示されている（推計結果表は章末に掲げている）。

人口の予測結果によると、大きく3つの特長が伺える。

①総人口は、2000年国調時の1,530人から増加を続け、2015年には2,053人と2,000人の大台に乗ることが予測される。今後15年間で523人（34.2%）の増加が見込まれ、1.3

4倍になる。ただし、この増加傾向は、1990年と2000年の人口増加が支えており、公共事業に伴う人口流入分を差し引くべきである。その分を考慮すると、2015年の総人口は1,800人前後になりそうである。

②男女別では、男性の割合が高まり、2015年には男54.5%、女45.5%となる見込みである。1995年の国調までは男・女相拮抗していたが、2000年国調で男が52.4%と比重を増した。この傾向がその後の予測結果に反映されており、2000年の15～64歳層の男性の流入割合の大部分が公共工事関連による流入によるものであることを考慮する必要がある。2015年には、男性51%、女性49%程度に落ち着くものと見られる。

③年齢別では、年少人口（0～14歳）と生産年齢人口（15～64歳）が絶対数でも構成比でも増加する見込みである。これに対して、老年人口（65歳以上）は減少し、構成比も13.7%になる見込みである。高齢化が止まり、若い年齢の村に変貌することが予測されるが、上記(ロ)、(ハ)で指摘したように、公共事業に伴う人口流入の影響が反映されているので、急速な年齢構成の若返りはないかも知れない。

以上の人口推計については、住民登録台帳人口の動向によってチェックしながら、適切な人口規模を推計しなければならない。

表1-2 将来人口推計（伊平屋村）

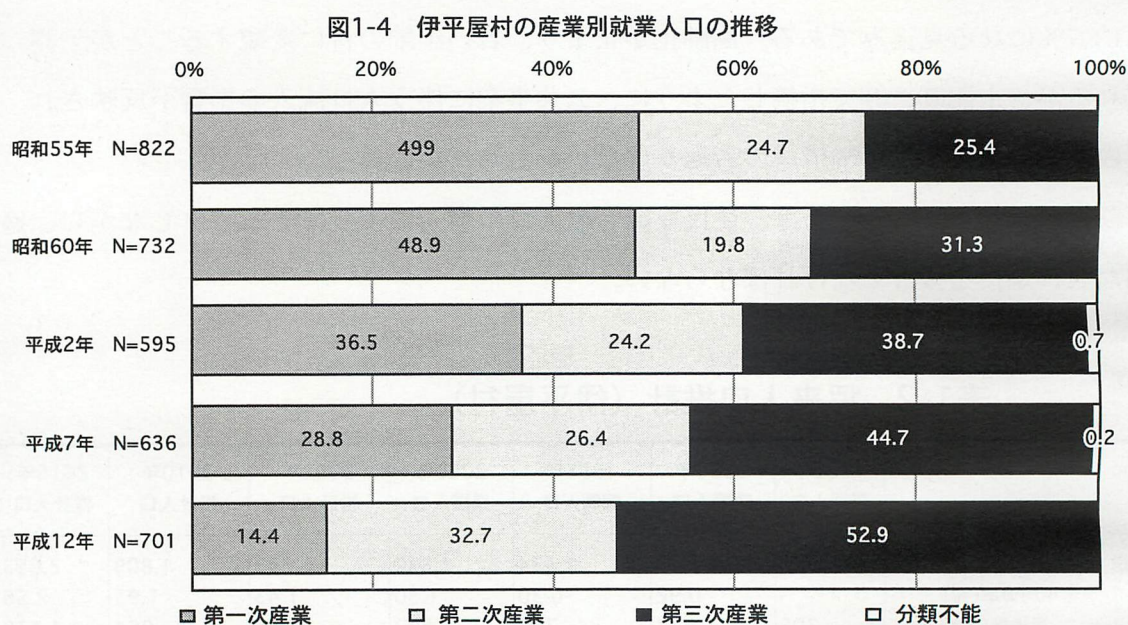
	1985年 国調人口	1990年 国調人口	1995年 国調人口	2000年 国調人口	2005年 推計人口	2010年 推計人口	2015年 推計人口
総人口(人)	1,391	1,456	1,434	1,530	1,643	1,809	2,053
年平均伸率(%)	-	0.92	-0.30	1.30	1.43	1.95	2.56
男子計(人)	705	731	728	802	864	964	1,118
女子計(人)	686	725	706	728	779	845	934
0～14歳(人)a	304	358	392	356	387	452	556
15～64歳(人)b	802	791	698	826	929	1,065	1,215
65歳以上(人)c	285	307	344	348	327	292	282
人口構成比(%)							
男子計	50.7	50.2	50.8	52.4	52.6	53.3	54.5
女子計	49.3	49.8	49.2	47.6	47.4	46.7	45.5
0～14歳a	21.9	24.6	27.3	23.3	23.6	25.0	27.1
15～64歳b	57.7	54.3	48.7	54.0	56.6	58.9	59.2
65歳以上c	20.5	21.1	24.0	22.7	19.9	16.1	13.7
年少人口指数 a / b	37.9	45.3	56.2	43.1	41.7	42.4	45.8
老年人口指数 c / b	35.5	38.8	49.3	42.1	35.2	27.4	23.2
従属人口指数 (a + c) / b	73.4	84.1	105.4	85.2	76.9	69.9	69.0
老齢化指数 c / a	93.8	85.8	87.8	97.8	84.5	64.6	50.7

資料：総務庁統計局『国勢調査報告 47 沖縄県』昭和60年版、平成2年版、平成7年版、平成12年版。

(3) 産業別就業構造

伊平屋村の産業別就業人口は、昭和55年の822人から平成12年の701人へ121人（14.7%）の減少を示した。傾向的には、昭和55年から平成2年まで減少したが、平成7年から増加傾向を示している。

伊平屋村の就業構造は、昭和55年には第一次産業が49.9%と半数を占め、第三次産業が25.4%、第二次産業が24.7%であった。その後、大きな構造変化があり、第一次産業は14.4%までウェイト・ダウンし、第三次産業が52.9%、第二次産業が32.7%と、構造的には高度化している（図1-4）。



資料：「沖縄県統計年鑑」各年次版。

昭和55年から平成12年にかけて、第一次産業が35.5%だけ低下したが、その77.5%が第三次産業を押し上げて52.9%とし、22.5%が第二次産業の押し上げ分となり、32.7%にとどまった。

沖縄県平均と比べると、第一次産業と第二次産業のウェイトが高く、第三次産業のウェイトは低い。第二次産業では建設業が中心となり、公共事業依存型経済である。第三次産業では、観光関連産業によるサービス業の伸びがみられる（表1-2）。

ものづくり（＝物的生産力）では、農漁業のウェイトが県平均よりも高いが、製造業のウェイトは低い。特産品開発への取り組みが必要であろう。

表1-3 伊平屋村の産業別就業人口

単位：人、%

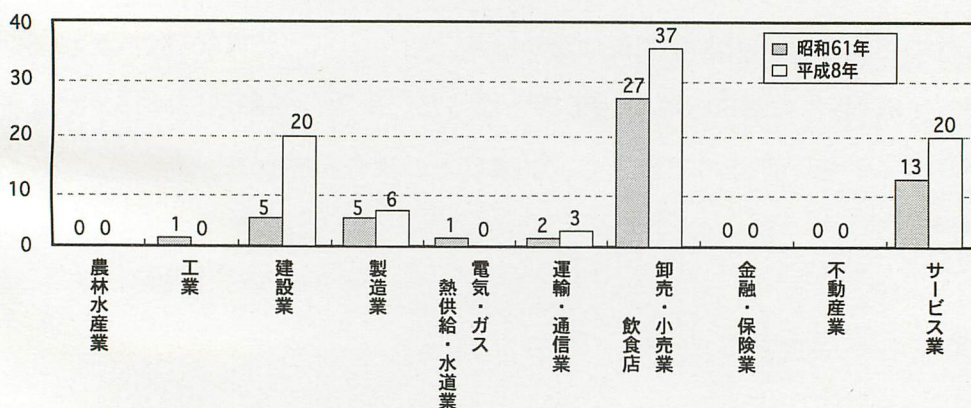
総	数	昭和55年		昭和60年		平成2年		平成7年		平成12年		沖縄県
			構成比		構成比		構成比		構成比		構成比	
総		822	100.0	732	100.0	595	100.0	636	100.0	701	100.0	100.0
第一次産業		410	49.9	358	48.9	217	36.5	183	28.8	101	14.4	6.2
農	業	373	45.4	314	42.9	185	31.1	155	24.4	76	10.8	5.51
林	業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.04
漁	業	37	4.5	44	6.0	32	5.4	28	4.4	25	3.6	0.6
第二次産業		203	24.7	145	19.8	144	24.2	168	26.4	229	32.7	18.8
鉱	業	-	-	5	0.7	-	-	-	-	-	-	0.02
建	設	189	23.0	125	17.1	137	23.0	153	24.1	209	29.8	13.4
製	造	14	1.7	15	2.0	7	1.2	15	2.4	20	2.9	5.3
第三次産業		209	25.4	229	31.3	230	38.7	284	44.7	371	52.9	74.2
電	気・ガ	1	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	0.7
運	輸・通	24	2.9	25	3.4	23	3.9	20	3.1	25	3.6	6.2
卸	売・小	42	5.1	44	6.0	50	8.4	61	9.6	7.9	11.3	24.3
金	融・保	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.4
不	動	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.0
サ	ー	80	9.7	88	12.0	109	18.3	138	21.9	189	27.0	33.5
公	務	62	7.5	72	9.8	48	8.1	64	10.1	78	11.1	6.2
分	類	0	0	0	0	4	0.7	1	0.2	0	0.0	0.9

資料：「沖縄県統計年鑑」各年次版。

(4) 事業所数

伊平屋村の事業所数をみると、昭和61年の54か所から平成8年の86か所へ32か所（1.6倍）の増加を示した（図1-5）。

産業別では、卸・小売業・飲食店が37か所で最も多く、建設業とサービス業が共に20か所となっている。この3分野が伊平屋村の産業特性を規定している。



資料：「沖縄県統計年鑑」各年次版。

(5) 農家数

伊平屋村の農家数は、昭和55年の275戸から平成7年の145戸へ130戸（47.3%）の減少となった。専・兼業別では、専業のウエイトが高まる傾向にあり、昭和55年の13.8%から平成2年の29.9%まで高まり、その後は減少しているものの、平成7年は23.4%であった（表1-4）。

表1-4 伊平屋村の農家数及び農家人口

単位：戸，人

	昭和55年	60年	平成2年	7年	構成比
農家数	275	224	194	145	100.0
専業	38	54	58	34	23.4
兼業	237	170	138	111	76.6
第1種	688	75	74	0	27.6
第2種	169	83	81	71	49.0
農家人口	1,043	822	703	528	100.0
男	527	415	342	268	50.8
女	516	407	361	260	49.2
15～29歳	124	91	67	31	5.9
30～59歳	393	318	259	182	34.5
60歳以上	246	235	221	196	37.1

資料：「沖縄統計年鑑」「離島関係資料」各年次版。

兼業の中では、第2種が昭和55年の71.3%から60年の48.8%へウエイトを落としたが、その後はやや戻して平成7年には64.0%まで高まった。

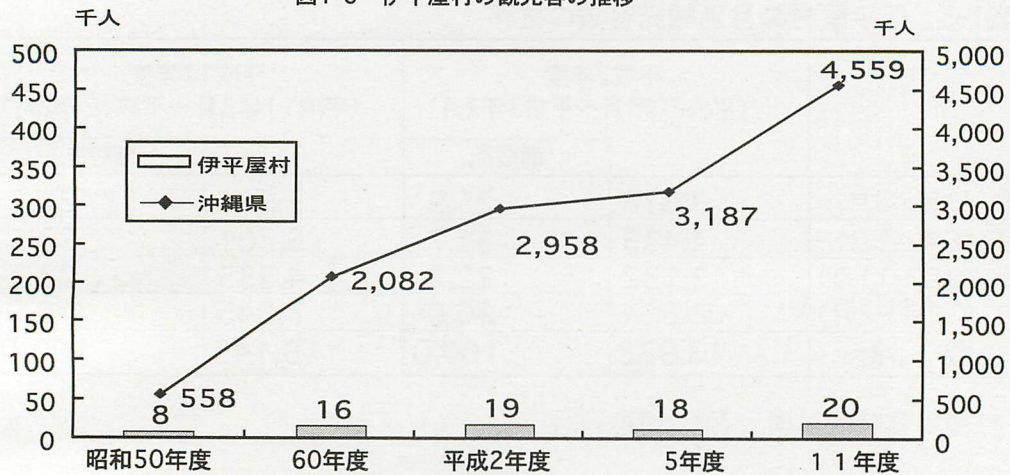
伊平屋村の農家人口は、昭和55年には1,043人を数えたが、その後は漸減して、平成7年には528人とどまった（表1-4）。15年間で515人（49.4%）も減少した。

農家人口の男女比は、大きな変化はなかった。昭和55年には男50.5%、女49.5%であったものが、平成7年には男50.8%、女49.2%となった。また、年齢別では15～29歳層と30～59歳層がウエイトを下げたのに対して、60歳以上の割合が高まり、高齢化が進行していることが伺える。

(6) 観光

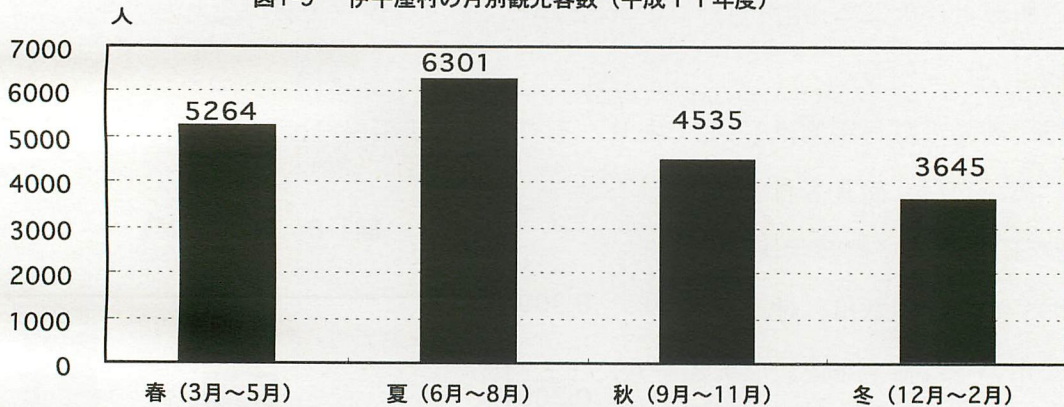
伊平屋村の平成11年の観光入域客数は1万9,745人となり、昭和50年の8,000人に比べ2.47倍となった。昭和50年から60年にかけておおむね倍増して1万5千人台にのり、平成2年には1万8,900人に達した。平成5年は1万8,156人と伸び悩んだが、11年には2万人台にのる勢いをみせた。

図1-6 伊平屋村の観光客の推移



資料：「沖縄統計年鑑」各年次版。

図1-9 伊平屋村の月別観光客数 (平成11年度)



資料：「沖縄県統計年鑑」各年次版。

伊平屋村の観光が伸びている背景として、近年の離島ブームが考えられるが、それに呼応してフェリーの大型・高速化や海の学校の開催等が行われたことが挙げられる。今後、観光資源の開発やPR活動、周遊ルートの確立などによって、潜在需要を掘り起こすことができれば、5万人観光が実現可能である。なお、観光の振興に当たっては、島の生態系等のキャパシティを超えることがないようなエコツーリズムを推進すべきであろう。

伊平屋観光の季節動向をみると、夏季（6月～8月）がピークであり、次いで春季（3月～5月）、秋季（9月～11月）となっている。冬季（12月～2月）はオフ・シーズンである。この傾向は、平成2年以降続いている。

表1-5 伊平屋村の月別観光客数の推移

	平成2年度 (平成2年3月～平成3年2月)		平成11年度 (平成11年3月～平成12年2月)	
		構成比		構成比
春(3月～5月)	3,616	25.9	5,264	27.5
夏(6月～8月)	4,436	31.7	6,301	32.9
秋(9月～11月)	3,132	22.4	4,535	23.7
冬(12月～2月)	2,804	20.0	3,645	19.0
合計	13,988	100.0	19,145	100.0

資料：「沖縄県統計年鑑」各年次版。

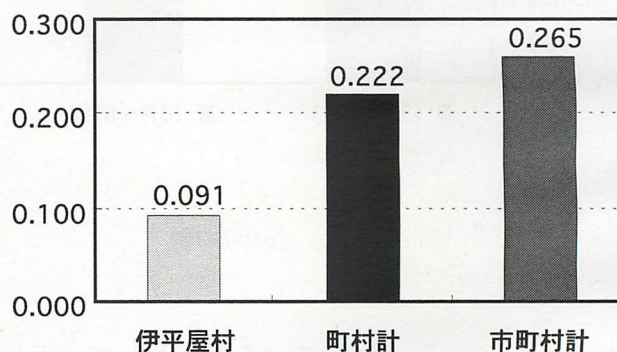
(7) おもな財政指標

伊平屋村の財政力を示す財政力指数は平成13年度について0.091であり、厳しい状況にある。町村計は0.222，市町村計は0.265となっており、伊平屋村はそれらの半分以下の財政力となっている。

県内の離島市町村平均は0.142であり、その中でも伊平屋村は渡名喜村、粟国村、座間味村、渡嘉敷村、伊是名村とともに、0.1を下回る厳しい財政状況にある。

図1-8 財政力指数

なお、財政力指数は、地方交付税の算出に用いられる基準財政収入額を基準財政需要額で除した数値の過去3カ年の平均値であり、地方自治体の財政力を示す指標である。全国平均の財政力指数は、0.40（平成12年度）であった。



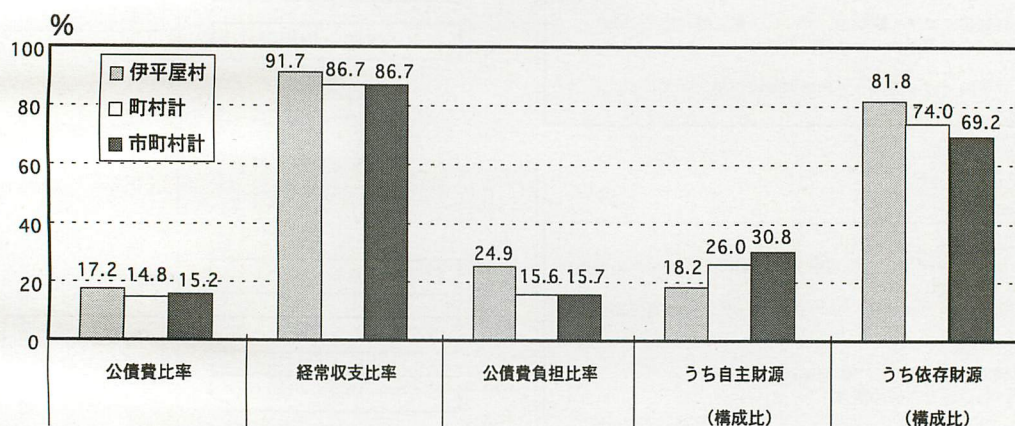
平成13年度の歳入総額は、47億2,112万円であったが、そのうち地方税や使用料・手数料、財産収入、分担金・負担金等の自主財源比率は18.2%であり、市町村計（30.8%）や町村計（26.0%）よりも低い水準であった。その分、地方譲与税や地方交付金、国庫支出金等の依存財源の比率が81.8%と高くなっている。伊平屋村の依存財源比率は、町村計（74.0%）や市町村計（69.2%）よりも高くなっている。経済不況下でしかも国の財政状況が厳しくなる中で、いかにして自主財源比率を高めるかが今後の課題である。

経常収支比率は、地方税や地方交付税などの経常的歳入に対する人件費や公債費、扶助費等の経常的歳出に充当される一般財源の割合であり、財政構造の弾力性を示す指標である。通常、町村は70%程度が適正とされている。伊平屋村の平成13年度の経常収支比率は91.7%であり、県内の町村計（86.7%）や市町村計（86.7%）を上回っており、財政の硬直化が大きいことを示している。

公債費に充てられた一般財源等が標準財政規模に対してどの程度の割合になっているかを示す公債費比率は、13年度については17.2%であり、町村計（14.8%）や市町村計（15.2%）を上回っている。

他方、公債費に充てられた一般財源等の一般財源等総額に占める割合を示す公債費負担比率は、平成13年度は24.9%となり、警戒ライン（15%）や危機ライン（20%）を上回っている。資料：「市町村行財政概況（第四十六集）」

図1-9 財政諸指標等



2 伊平屋村産業振興センター（仮称）の考え方

伊平屋村産業振興センター（仮称、以下、振興センターという）は、現在、公共事業に依存した建設業を中心とした産業構造を、〔農水産業－製造業－観光・サービス業〕へ変え、村経済が自立していくためのしくみをつくることである。

伊平屋村は、

◇建設業以外の産業が弱く、雇用の機会が少ないこと

◇村内の素材や資源を十分に生かしているとはいえないこと

という特徴を持っていることから、潜在的な産業振興と雇用開発の可能性を秘めている。

図 2-1 伊平屋村の現状と課題

現 況	地 域 振 興 の 課 題	今後の方向性
<p>人口・世帯数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口・世帯数とも増加 ・人口は増加しているが高齢者も増加 ・自然動態、社会動態ともにプラス基調 <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化は急激ではないが実数は確実に増加している ・将来人口は、過去のすう勢で増加が見込まれる 	<ul style="list-style-type: none"> 若年層の定住促進 雇用吸収力の向上 高齢者対策 	<p>多様な就業機会の創出</p>
<p>就業構造及び産業構造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建設業の就業者が多く、基幹産業となっている。 ・農業・漁業の割合も高い ・事業所数は商業・飲食店、サービス業、建設業で多い ・農業は農家数、農家人口ともに減少 <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建設業、商業・飲食店、サービス業に特化している ・観光の効果がサービス業に反映 ・モノづくり産業が弱い ・小売業・飲食店など生活関連業は存続 	<ul style="list-style-type: none"> 建設業に代わる産業の育成 モノづくり産業の育成・振興 観光の振興と裾野の拡大 	<p>モノづくり産業と観光の振興</p>
<p>観光</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光客は増加しているが夏季に集中する傾向にあり通年化が必要 ・ダイビング、ホエールウォッチング以外の観光客が少ない <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滞在型観光地としての整備が必要 ・エコツーリズムの推進 	<ul style="list-style-type: none"> 観光源の開発 潜在需要の掘り起し エコツーリズムの推進 	<p>地域資源活用の特産品開発</p>
<p>財政</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財政力指数や自主財源は県平均より低い。 ・経常収支比率や公債費負担比率は県平均より高い。 <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主財源の拡大と依存財源の縮減 	<ul style="list-style-type: none"> 自主財源の確保 特産品開発と販売推進（シーズからモノづくり） 観光とのリンク強化 	<p>モノづくりと観光の有機的連携</p>

伊平屋村での産業おこしは、

- ①市場への遠隔性や若年就業者が少ないことなどから、基幹であるべき農業や水産業の活性化を図り、その産物を加工し展開するしくみをつくる
- ②このしくみは地場産品の特産品化など農業や水産業以外の産業創造の苗床としていくことで若年者の雇用開発につながっていく
- ③〔農・水産業－製造業－観光・サービス業〕が連携して発展する産業システムを構築する

という三つのステップで考えることによって、伊平屋村経済の自立につながるシステムがつくられる。このステップを推進していくのが伊平屋村産業振興センター（仮称）にほかならない。

伊平屋村産業振興センターは、現在の村の産業構造を有機的に連携する核となる主体であり、産業の連結を強化することによって、域内自給はもとより、県外出荷を積極的に促進して対外受取（稼ぎ）を増やし、経済の自立及び財政の確立を図る役割をもつ（図2-2）。本村の現在の産業構造は、建設業を主体としてそれに観光・サービス業、小売業・飲食店、農・水産業がばらばらに存立しているのが特徴である。このような産業構造を変え、特産品開発、農・水産業振興、観光・サービス・商業がバランスよく機能する産業構造とするために、伊平屋村の支援を受けた伊平屋村産業支援センターを位置づける。その機能は、別稿で触れたとおり、プロデュース機能、コーディネート機能、プロモート機能、オーガナイザー機能であり、これら四つの機能を発揮することによって以下のような効果が期待できる（図2-3）。

- ①雇用環境の創出
- ②村内自給の向上
- ③特産の産地化
- ④エコツーリズムの拠点化
- ⑤自主財源の増大
- ⑥経済の自立と自治の確立

図2-2 センターの方向性

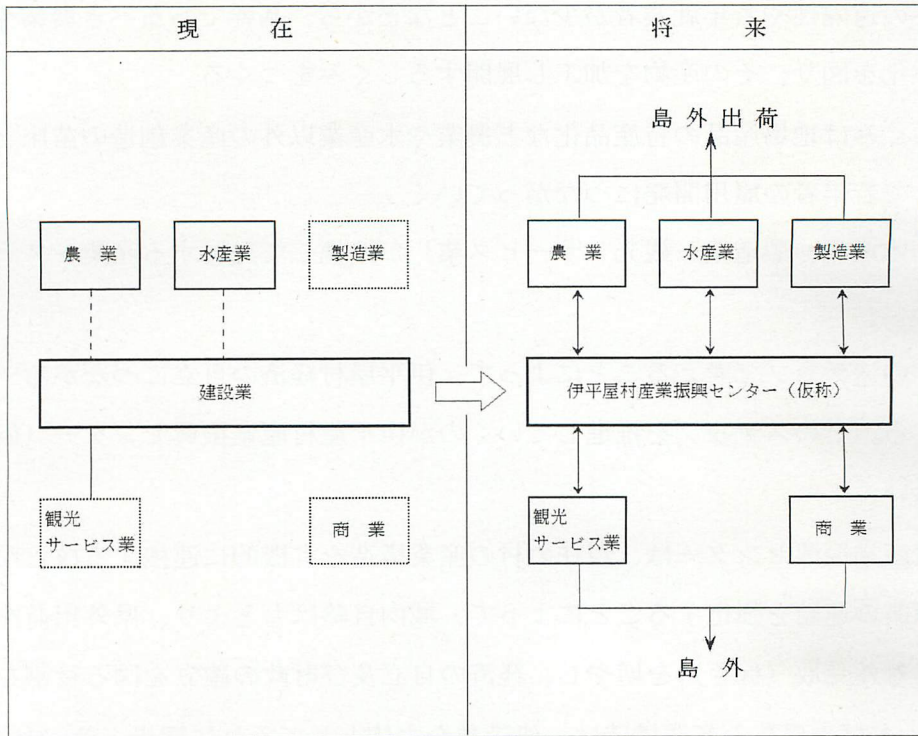
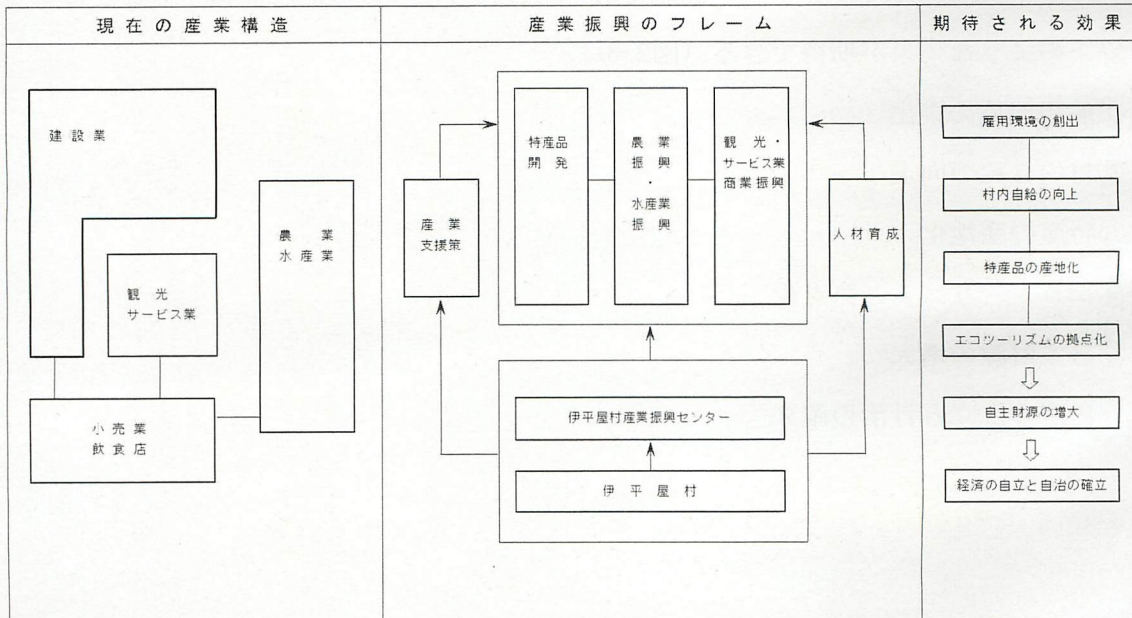


図2-3 伊平屋村の産業振興



付表 将来人口推計（伊平屋村）

単位：人

年齢階級	1985年 国調人口	1990年 国調人口	1995年 国調人口	2000年 国調人口	1985-2000年 コ-ホ-ト変化率	2005年 推計人口	1990-2005年 コ-ホ-ト変化率	2010年 推計人口	1995-2010年 コ-ホ-ト変化率	2015年 推計人口
男子計	705	731	728	802		864		964		1,118
0~4歳	47	62	56	45	0.266159696	76	0.270577799	85	0.262754417	94
5~9	33	55	73	54	1.103972612	50	1.081892560	83	1.050050295	90
10~14	49	39	57	74	1.077293483	58	1.042451916	52	1.044481343	86
15~19	15	21	10	16	0.321894480	24	0.286335497	17	0.296310577	15
20~24	30	19	16	31	1.709523810	27	1.857142857	44	2.222222222	37
25~29	56	33	26	37	1.593640351	49	1.758187135	48	1.888109162	84
30~34	60	65	39	51	1.434690310	53	1.526015651	75	1.640748141	79
35~39	46	62	64	56	1.151282051	59	1.190598291	63	1.259259259	95
40~44	30	55	64	85	1.185345079	66	1.181909381	69	1.231793154	78
45~49	45	40	56	72	1.158838384	99	1.100673401	73	1.128170595	77
50~54	57	41	32	67	0.969179894	70	0.988536155	97	1.051381540	78
55~59	56	56	42	35	1.033532128	69	1.050557457	73	1.059279862	103
60~64	39	54	52	38	0.932539683	33	0.921957672	64	0.919753086	67
65~69	43	33	48	42	0.847578348	32	0.848053181	28	0.834441279	53
70~74	38	33	31	43	0.867556378	36	0.900927883	29	0.888105865	25
75~79	31	32	28	23	0.810841865	35	0.800420733	29	0.784399361	23
80~84	21	21	23	21	0.715389785	16	0.728046595	25	0.731145460	21
85~	9	10	11	12	0.507246377	11	0.517598344	9	0.515527950	13
0~14	129	156	186	173		184		220		270
15~64	434	446	401	488		549		625		713
65~	142	129	141	141		131		120		135
女子計	686	725	706	728		779		845		934
0~4歳	71	71	55	46	0.307984791	88	0.294311485	85	0.274752480	94
5~9	48	77	75	62	1.089372599	50	1.090994452	96	1.102546593	94
10~14	56	54	76	75	1.037337662	64	1.008116883	51	1.015151515	98
15~19	12	11	11	16	0.203552864	15	0.205927628	13	0.206668936	10
20~24	16	13	16	33	1.845959596	30	2.100168350	32	2.315375982	31
25~29	41	35	22	30	1.918269231	63	1.828525641	54	1.873931624	60
30~34	38	45	39	36	1.282736775	38	1.344462042	85	1.421187485	77
35~39	27	41	45	45	1.077597841	39	1.077147998	41	1.102863998	94
40~44	22	30	40	53	1.088166215	49	1.080517916	42	1.115487303	46
45~49	32	23	29	38	0.987373737	52	0.968013468	47	0.968462402	41
50~54	40	32	21	32	1.005497251	38	1.007329668	53	1.038758399	49
55~59	66	49	34	21	1.095833333	35	1.052777778	40	1.049537037	55
60~64	74	66	40	34	0.938775510	20	0.918367347	32	0.952380952	38
65~69	39	67	61	41	0.951549277	32	0.966930567	19	0.981159948	32
70~74	31	34	65	56	0.919992304	38	0.936058115	30	0.924694402	18
75~79	33	29	32	60	0.933245755	52	0.932499716	35	0.929607465	28
80~84	21	32	21	27	0.845861634	51	0.804583188	42	0.831398274	29
85~	19	16	24	23	0.869047619	23	0.904761905	46	0.956349206	40
0~14	175	202	206	183		203		232		286
15~64	368	345	297	338		380		440		502
65~	143	178	203	207		197		172		147
総計	1,391	1,456	1,434	1,530		1,643		1,809		2,053
0~4歳	118	133	111	91		165		171		188
5~9	81	132	148	116		100		179		184
10~14	105	93	133	149		122		102		184
15~19	27	32	21	32		39		30		26
20~24	46	32	32	64		57		76		68
25~29	97	68	48	67		113		102		144
30~34	98	110	78	87		92		160		156
35~39	73	103	109	101		98		105		189
40~44	52	85	104	138		115		111		124
45~49	77	63	85	110		151		120		119
50~54	97	73	53	99		108		150		126
55~59	122	105	76	56		104		114		158
60~64	113	120	92	72		52		96		106
65~69	82	100	109	83		65		47		85
70~74	69	67	96	99		74		59		42
75~79	64	61	60	83		87		64		51
80~84	42	53	44	48		67		67		51
85~	28	26	35	35		34		54		53
a) 0~14	304	358	392	356		387		452		556
b) 15~64	802	791	698	826		929		1,065		1,215
c) 65~	285	307	344	348		327		292		282
構成比										
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%		100.0%		100.0%
0~4歳	8.5%	9.1%	7.7%	5.9%		10.0%		9.4%		9.2%
5~9	5.8%	9.1%	10.3%	7.6%		6.1%		9.9%		8.9%
10~14	7.5%	6.4%	9.3%	9.7%		7.5%		5.7%		9.0%
15~19	1.9%	2.2%	1.5%	2.1%		2.4%		1.7%		1.3%
20~24	3.3%	2.2%	2.2%	4.2%		3.5%		4.2%		3.3%
25~29	7.0%	4.7%	3.3%	4.4%		6.9%		5.6%		7.0%
30~34	7.0%	7.6%	5.4%	5.7%		5.6%		8.9%		7.6%
35~39	5.2%	7.1%	7.6%	6.6%		5.9%		5.8%		9.2%
40~44	3.7%	5.8%	7.3%	9.0%		7.0%		6.2%		6.0%
45~49	5.5%	4.3%	5.9%	7.2%		9.2%		6.7%		5.8%
50~54	7.0%	5.0%	3.7%	6.5%		6.6%		8.3%		6.1%
55~59	8.8%	7.2%	5.3%	3.7%		6.4%		6.3%		7.7%
60~64	8.1%	8.2%	6.4%	4.7%		3.2%		5.3%		5.2%
65~69	5.9%	6.9%	7.6%	5.4%		3.9%		2.6%		4.1%
70~74	5.0%	4.6%	6.7%	6.5%		4.5%		3.3%		2.1%
75~79	4.6%	4.2%	4.2%	5.4%		5.3%		3.6%		2.5%
80~84	3.0%	3.6%	3.1%	3.1%		4.1%		3.7%		2.5%
85~	2.0%	1.8%	2.4%	2.3%		2.1%		3.0%		2.6%
a/TOTAL	21.9%	24.6%	27.3%	23.3%		23.6%		25.0%		27.1%
b/TOTAL	57.7%	54.3%	48.7%	54.0%		56.5%		58.9%		59.2%
c/TOTAL	20.5%	21.1%	24.0%	22.7%		19.9%		16.2%		13.7%
a/b	37.9	45.3	56.2	43.1		41.7		42.4		45.8
c/b	35.5	38.8	49.3	42.1		35.2		27.4		23.2
(a+c)	73.4	84.1	105.4	85.2		76.9		69.9		69.0
c/a	93.8	85.8	87.8	97.8		84.6		64.7		50.7